ご参考資料

BASE Vol.113

実践的基礎知識　決算書の読み方編（４）
＜損益計算書（P/L:Profit and Loss Statement）①＞

2020/03/26

損益計算書(P/L:Profit and Loss Statement)①

損益計算書(P/L)は企業の一定期間の収益と費用と損益を報告するものです。「いくらの売上があったのか」、「どのくらいのコストがかかっているのか」、「差引きでどのくらいの利益がでているのか」等を動画のように、一定期間で、記録して表しています。ただ単に「いくら入って、いくら出て、いくら儲かったか」というフローだけでなく、商売の構造の「どこが良くてどこが悪いのか」までを明らかにしながら、商売の状況を教えてくれます。

損益計算書の構成

まず損益計算書には、いつからいつまでの期間の記録なのかを表す「期間」が書いてあります。そしてその期間中に「いくら分売れました」「コストはいくらかかりました」「その結果、差し引きいくら儲かりました」という1年間の商売の状況が報告されています。

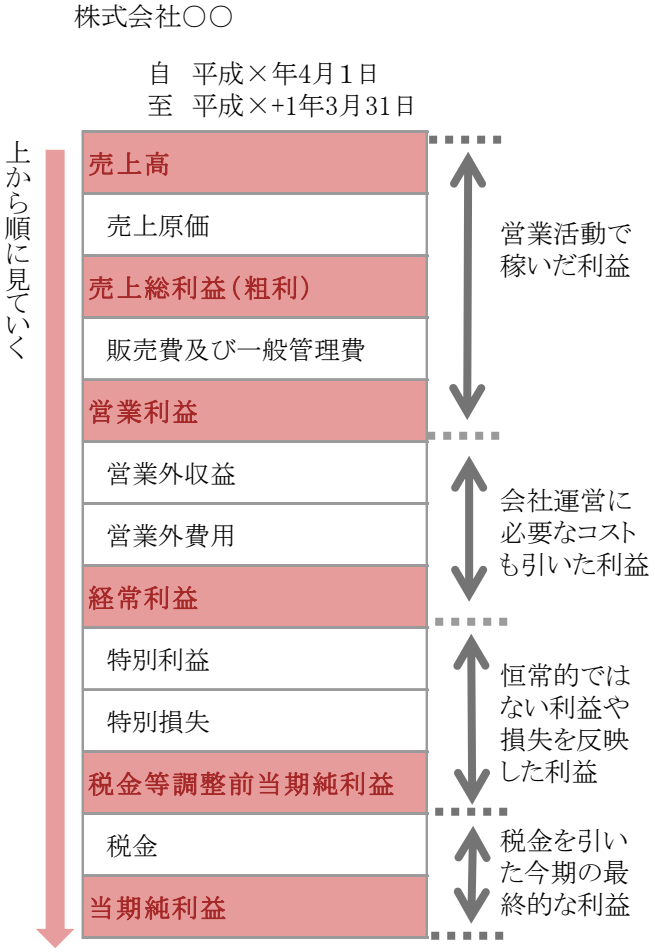
具体的には「この1年間でどれだけの売上があったのか」を表の一番上に書き、そこから「何にどのくらいの費用がかかったのか」をコストの種類別に差し引いて各段階までの利益を上から順番に書いていって、一番下に最終的な儲けが残るという形でまとめられています。

損益計算書には各段階までの利益、「とりあえずここまでのコストを差し引いていくらの儲けです」ということを教えてくれる「〇〇利益」という項目があり、途中で分からなくなってしまっても、この「 〇〇利益」を目印にして読んでいくことができます。

損益計算書というのは非常によくできており、ただ単に「いくら入って、いくら出て、いくら儲かったか」というフローだけでなく、商売の構造の「どこが良くてどこが悪いのか」までを明らかにしながら、商売の状況を教えてくれます。

尚、次ページに損益計算書の項目について用語解説を記載いたしました。

図表1:損益計算書の構成イメージ図



当資料をご利用にあたっての注意事項等
●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

損益計算書の項目　用語解説

損益計算書の各項目について以下具体的に解説いたします。

売上高
1年間でこれだけ売れました。

売上原価
仕入れや材料費等の原価でこれだけかかりました。

売上総利益（粗利）
売上から仕入れ代等の原価を引いてこれだけの儲けです。

販売費及び一般管理費
人件費や賃料、広告費、通信費等でこれだけかかりました。

営業利益
商売に必要な付随的な費用も引いてこれだけの儲けです。

営業外収益
利息など商売以外の部分でこれだけの収益がありました。

営業外費用
利息など商売以外の部分でこれだけの費用がかかりました。

経常利益
会社の運営に必要な費用も引いてこれだけの儲けです。

特別利益
今回たまたま発生した利益がありました。

特別損失
今回たまたま発生した損失がありました。

税金等調整前当期純利益
今回たまたま発生したものも引いてこれだけの儲けです。

税金
税金をこれだけ払いました。

当期純利益
この1年間の最終的な儲けはこの金額です。

図表2：損益計算書（見本）

株式会社〇〇

自　平成×年4月1日
至　平成×+1年3月31日

売上高	800
売上原価	600
売上総利益（粗利）	200
販売費及び一般管理費	100
営業利益	100
営業外収益	30
営業外費用	20
経常利益	110
特別利益	15
特別損失	30
税金等調整前当期純利益	95
税金	50
当期純利益	45